

日本共産党 宇治市会議員団 議会報告・市政要求懇談会を開催

2025年9月定例会を中心に議会報告 参加者と意見交換を行う

日本共産党宇治市会議員団は、10月21日、議会報告・市政要求懇談会を開催しました。

宮本繁夫団長から9月定例会の特徴や取組を(抜粋を「1」に記載)、水谷修府会議員にも参加してもらい、京都府の状況などを報告(抜粋を「2」に記載)してもらいました。

1. 庁舎警備と休日夜間対応業務の民間委託は問題

市役所の受付業務などを民間会社に委託する補正予算案が提案されました。

休日夜間にも婚姻届など個人情報が記載された文書を取り扱う。公務員には退職後まで守秘義務があるが、民間委託で個人のプライバシーや情報が厳格に守られるかについて懸念があります。

党議員の質疑で、埋葬・火葬許可証の発行は、民間ではできない行政行為があると明らかになりましたが、市は対応について「これから検討する」と無責任な答弁を繰り返しました。

党議員団は、民間業務委託予算を削除する修正案を提出しましたが否決されました。

2. 消防の広域化への道を開く指令の共同化

京都府が主導して、京都南部の市町村で119番の指令業務を共同運用し、京都市南区にある消防学校に指令センターを設立する計画が進行しています。消防は、各消防本部を持つ自治体が運営しており、京都府に権限がないにもかかわらず、国の「消防の効率化」方針に基づき進められています。将来的には消防そのものの広域化につながる可能性があり問題です。

また、上下水道についても広域化が推し進められています。広域化で単位を大きくして、「官民連携」という名目で、民間企業を参入させるものです。

市民の命にかかる自治体の基本的な業務です。



「お出かけ支援の実証運行は市民の声を聞いてもっと便利に充実して」、「生活保護引き下げは違憲で改善を求める声を継続して出して」、「JR 小倉駅での無人化に住民から怒りの声がある」、「不登校支援の学習場所を複数作って欲しい」など、多数の意見

報告後に、参加者と意見交換を行いました。

宇治市が10月14日から開始した「お出かけ支援実証運行」について、地域では様々な意見が出されました。特に大久保町平盛・旦椋と木幡南山という地域限定で行われているが、もっと地域を拡大して欲しい。買い物やバス停での乗り換えに限定されており、病院、市役所、駅まで行けるようにしてなどの声があり、今後は市民の声を聞いて充実をめざして欲しい。

党議員団が提出した、生活保護費の引き下げは憲法違反であり改善を求める意見書について、その声を引き続き上げて行って欲しい。

JR 小倉駅に、突然駅の無人化を行うと貼り紙がされた。地域の住民が困っており怒りの声が出されている。

不登校支援として行っている「ふれあい教室」が木幡幼稚園跡に移転する。市の東側に一つでは通いにくくなる。西側なども含め複数設置して欲しい。

その他、公民館の充実、道路の側溝整備・歩道整備をして欲しいなどのご意見や要望が出されました。

党議員団は、今後予定されている決算委員会や議会などで、皆さんのが声を届け、実現を目指し引き続き取り組んでいきます。

